

## はじめに

著者	森川 結花
雑誌名	甲南大学総合研究所叢書
巻	143
発行年	2021-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1260/00003885/">http://id.nii.ac.jp/1260/00003885/</a>

## はじめに

本書は、甲南大学総合研究所研究チーム No. 143 として集った 9 人の研究者が、「日本語教育における文化」という大きなテーマについて 2 年間の共同研究を行った成果物である。研究チームの概略は以下の通りである。

### 研究課題

文化の継承と日本語教育

### 研究内容

日本語教育においては、「文化」をどのように捉え、どの側面をどう教えるかという問題が教師の前に常に大きく立ちはだかっている。言語と文化は切り離せないという通念は共有されているものの、教育機関や教科書・教材、または教師の信念等により、文化題材の取り扱い方はまちまちである。その一方で、日本語学習者の多くは日本文化への興味関心が強い動機となって日本語学習に取り組んでいることも事実である。

このような状況を踏まえ、本研究チームは、文化とは、日本文化とは、そして、日本語教育ではどんな文化題材をどのように教えるのが効果的であるかについて、教育実践、調査、研究を行った。チームのメンバーの専門分野は日本語教育のみならず、言語学、英語教育、日本文学、日本史といった関連分野に及び、また、メンバーの所属先やバックグラウンドも国境を越えて多岐にわたる。学際的、国際的で多角的な視点から「日本語教育と文化」という大きな課題に取り組んだ。

また、甲南大学の人脈、人的リソースを活用する形で、オーセンティックな日本の伝統文化である能楽や茶道をも研究の対象とし、甲南大学ならではのオリジナルな研究成果をあげることを目指した。

## 研究期間

2018年4月1日～2020年3月31日

## 研究会およびワークショップなどの活動記録

- 2018年8月25日 日本語教師のためのワークショップ  
日本文化の理解と継承Ⅰ 茶道
- 2018年9月8日 日本語教師のためのワークショップ  
日本文化の理解と継承Ⅱ 能楽
- 2019年10月19日 留学生と日本語教師のためのワークショップ 能
- 2020年2月15日 留学生と日本語教師のためのワークショップ 茶道
- 2020年2月28日 研究成果報告会

## 研究メンバー（所属機関名）

- 研究チーム代表者 Thomas MACH（甲南大学国際言語文化センター）
- 研究メンバー 佐藤泰弘（甲南大学文学部歴史文化学科）
- 廣川晶輝（甲南大学文学部日本語日本文学科）
- 谷守正寛（甲南大学国際言語文化センター）
- 森川結花（甲南大学国際交流センター）
- 永須実香（上智大学言語教育研究センター）
- 唐津麻理子（アリゾナ大学東アジア研究科）
- Stephen D. LUFT（ピッツバーグ大学人文学部  
東アジア言語文学科）
- 青木利江（フィンドレー大学言語文化学科）

以上、文責：森川結花